splendens STICHEL, 1909と同一のものであると発表された．

今回私は，この白色型(スギタニ型)について，1985年から足掛け6年間にわたり交配実験を繰り返した結果，これが遺伝型であることをつきとめたので報告する．

ただし私は，松村氏の言われる紅色紋消失型を白色型（スギタニ型）とは考えず，『翅裏面の色及び紅色紋を含む翅表面の全ての斑紋が白色化したもの』を白色型（スギタニ型）と定義した．なぜなら，紅色紋の大小は他の斑紋の白色化とはまったく関係なく，これを白色型の1ファクターと考えるのは不自然と考えたからである．また松村氏の言う『前後翅とも黒色』という部分も同様の理由から削除した．

交配実験の結果は次の通りである．

① 翅裏面の色及び翅表面の全ての斑紋が白色化した白色型(スギタニ型)は遺伝する．その遺伝はトータルとして考えれば劣性遺伝といえる．

② 白色型の3要素である翅裏面の白色化，翅表面の斑紋の白色化，紅色紋の白色化はそれぞれ別個の遺伝子によって決定される．

③ 翅裏面の白色型は一般的には優性遺伝し（地域によって優劣逆転現象もある），翅表面の斑紋（真っ黄色～真っ白）は中間遺伝．肛角の白色紋は劣性遺伝である．

④ これらの3要素は，それぞれ独立して遺伝するが，互いにかなり関わって遺伝している様にも見られる．

⑤ 野外でこの白色型オオムラサキを採集することは稀だが，中部以西，ことに中国地方には比較的多く産するようである．

(1923年の中原氏の報告にある『本品の標本として，斑紋は黄白色で後翅肛角の紅色紋がほとんど完全に消失した東京産雄1頭を蔵している』は私の定義する白色型（スギタニ型）にあたらない．

16．沖縄産カラスアゲハ群の休眠性と，カラスアゲハ群の地域間雑種の休眠性について 阿江　茂

昨年の当学会においてもオキナワカラスアゲハを中心としてカラスアゲハ群の休眠について発表したが，その後の新しいデータを加えた結果を報告する．

オキナワカラスアゲハとヤエヤマカラスアゲハは1日18時間照明25℃の飼育で非休眠蛹と休眠蛹を生じ，台湾産のカラスアゲハでは全く休眠蛹を生じないことを確認していたが，北海道帯広産のカラスアゲハを同じ条件で飼育したところ，3♂8♀が非休眠で羽化し，休眠蛹は全く生じなかった．

一方地域間雑種においては，上記条件下の飼育でヤエヤマカラスアゲハ♂と台湾産カラスアゲハ♀の間のF_1では休眠蛹も生じた．自然日長の初夏の逆交雑では休眠蛹を生じなかった．台湾産カラスアゲハ♀とヤエヤマカラスアゲハ♂の交雑では上記長日条件と自然日長のいずれでもF_1♂は非休眠で♀は巨大な羽化しない休眠蛹となったが，逆交雑はまだ得ていない．

またヤエヤマカラスアゲハ♀とオキナワカラスアゲハ♂の間では同じく巨大な羽化しないF_1♀蛹を生じたが，逆交雑では♀が非休眠で羽化した．

本州産カラスアゲハ♀とヤエヤマカラスアゲハ♂の間では，上記長日条件及び自然日長のいずれでも，非休眠と休眠の両方の蛹を生じた．

これらの地域間雑種は特に飼育条件等の影響をうけやすいようであり，くりかえし飼育実験を行う必要があるが，地域間の分化の程度の解明に重要と思われる．

17．バリ島産*Delias*属*belisama*グループについて (3) *D. oraia*に関する新知見および種の判別について

森中定治

バリ島には，*Delias*属 *belisama* グループに属する種として，*Delias belisama balina* および *D. oraia bratana* の2種が知られている．報告者は1984年4月，バリ島において両種を採集して以来，調査を継続し，第1報として両種の成虫のサイズや形態の特徴，両種の分布や生息環境，混棲状況，および習性の差異

について述べ，第2報では，両種♂交尾器のサイズ，前翅長との関係およびその形態的な差異について論じた．

本報では，*D. oraia*に関する新知見および両種の判別について述べる．まず，*D. oraia*はバリ島では，中央高地帯（海抜約900 m〜）からのみ知られていたが，ここ2〜3年の筆者の調査にて，東バリのスラヤ山（海抜約800 m〜），アグン山（海抜約900 m〜），および西バリのララン山（海抜約800 m〜）での生息を確認し，ほぼ全島の高地に分布していることを明らかにした．スラヤ山，アグン山は気象や地質の関係からか，あるいは人的な影響もあるためか，ほとんど原生林らしいものはなく，ランタナへ飛来するものや，疎林上を飛翔する個体を観察した．

次に，それぞれの産地のものについて比較検討を行った．個体数は少ないものの，明瞭は差異は見出されず，類似する傾向があった．特にスラヤ山は，アグン山や中央バリとは地形的に分断されており，もし相互の往来がないとすれば，比較的新しい時期に分断された可能性があると考えられた．大変興味深いテーマであり，今後ロンボク島のものも含めて，検討を継続していきたいと考えている．

バリ島における両種（♂）の判別については，前翅表面，外縁黒帯の広さで判別される．筆者の今回の検討では，それ以外にも，前翅裏面の基部の白化の状態，後翅裏面第7室の赤紋の幅，後翅裏面の地色によっても区別されるものと考えられた．今後，ジャワやロンボク島のものも含めて本グループの系統分化について検討してみたいと考える．

訂正　41巻2号

p.54　図1の1行目　（誤）1130-1140 m　（正）1030-1040 m

p.56　下9行目　（誤）内縁……まで　（正）襞線上

p.56　下9行目，p.60表1の3行目，p.63表2の3行目　（誤）e/FL　（正）f/FL

p.60　表1　BS列8行目　（誤）<u>27.2</u>　（正）27.2，BS列下1行目　（誤）42.9　（正）<u>42.9</u>

p.61　下9，10，12行目　（誤）0　（正）1

p.63　表2　Number of (8)列の下1行目　（誤）3　（正）4

p.64　下10行目　（誤）中国山地産　（正）中国山地産，屋久島産，下9行目　（誤）房総半島産と屋久島産は3で第3位　（正）房総半島産は3で第4位